

✧ 海外ニュース ✧

イタリア（ドイツ） 2018年9月3日 Verkehrs Rundschau

■ ジェノバその後：重量のある交通の鉄道への移動

NACH GENUA : SCHWERVERKEHR AUF DIE SCHIENE VERLAGERN

ジェノバでアウトバーンの橋が崩落した後、道路および橋に特に負担をかける重量のある交通をどのように減少させることができるかという課題が生まれた。交通研究者はスイスを模範として検討している。ジェノバにおけるアウトバーンの崩落は、貨物交通の鉄道への移行に関する議論を過熱させている。これまでに崩落の原因が明らかにされていないこともあり、重量のある交通を減少させることで道路や橋への負担を軽減することは明確である。「道路上に重量のある交通が少なくなればなるほど、道路の路面や橋にとって好ましい」と、交通研究者であるゲルノット・リーディ氏はドイツ通信社に対して語った。道路および環境保護を視野に入れた交通政策が採られているスイスが模範になるという。

アメリカ 2018年9月5日 DC VELOCITY

■ テスラ・モーターズが電動セミトラックを客先まで運行

Tesla Motors tours electric semi truck to customer sites

カリフォルニア州を出発した試作車がアイオワ州のルアン・トランスポート社へと向かい、同社では2019年の生産開始を多数の顧客が待ちわびている。電気自動車メーカーであるテスラ・モーターズは、大きな話題となったテスラ・セミの試作車を、その技術を実証する全米ツアーの一環として、アイオワ州に本社を構える運輸管理会社、ルアン・トランスポート社まで運行した。ルアン社が金曜日に発表したところによると、同社はこの電動トラクター・トレーラーを既に5台予約している。

ドイツ 2019年9月13日 BMVI

■ 連邦交通大臣 Scheuer 氏：最大の行政改革が幸先の良いスタートを切った

Größte Verwaltungsreform der Legislaturperiode erfolgreich eingeleitet

ドイツ政府は、9月13日に政府出資100%の長距離道路会社（Infrastrukturgesellschaft für Autobahnen und andere Bundesfernstraßen）を設立した。これにより、これまで連邦政府の委託により州によって実施されてきたアウトバーンの計画、建設工事、管理、維持補修、資金調達ならびに資産管理は、すべて連邦政府の所管となる体制が整う。道路会社が全業務を開始するのは2021年1月からになる。将来的には、15,000名の職員、10の支店、41の現場事務所と多数の管理事務所とを擁するドイツ最大のインフラ管理会社となる。また10月1日には、ドイツ連邦交通デジタルインフラ省は、全国のアウトバーンを含む連邦長距離道路全体を所掌する連邦長距離道路庁（Ferstraßen - Bundesamt）をライプチヒに設置した。

フランス 2018年9月14日 Le Figaro

■ 8月の交通事故死者数の記録的低下

Baisse record du nombre de tués sur nos routes en août

この問題に関するより掘り下げた研究を待つ必要はあるものの、7月1日より実施された最高速度の時速80

km への引き下げが、この良好な数字の原因であると思われる。最高速度の時速 80 km への引き下げの効果は出ているのだろうか。交通安全の歴史を通じて、今年の 8 月はもっとも交通事故死者数の少ない 8 月となった（昨年同時期の 297 人に対して 251 人）。交通安全担当省のスポークスマン、Emmanuel Barbe によれば、この良好な結果と 2 次道路網における最高速度の引き下げの間には、明らかな関係がある。7 月 1 日以降、ドライバーたちは、それまでの時速 90 km ではなく、80 km で走行しなければならなくなった。Barbe は「すでに 1 月から、つまり最高速度 80 km が施行される数カ月前から、交通事故死者数の減少の兆しは見えていた」とする。交通安全に関する意識向上の努力の結果である。要するに、ドライバーの行動について話をするだけでドライバーたちは理性的になるのである。実は、この 8 月の心強い結果の前に、すでに 7 月に 5.5% の交通事故死者数の低下が記録されている。

フランス 2018 年 9 月 18 日 Le Figaro

■ アルコール・インターロック装置の復調

Second souffle pour l'éthylotest antidémarrage

検査で血中アルコール濃度が 0.80 グラム / l 以上と判定されたドライバーは、今後、免許停止かアルコール・インターロック装置設置のいずれかの選択を迫られることになる。これはある意味では最後のチャンスかもしれない。政府は、現在、ほとんど定着していないアルコール・インターロック装置の新たな使用方法を考え出した。火曜日に発布された政令によれば、飲酒運転対策を目的とするこの装置は、6 県において設置が推奨されることになり、その後、来年 1 月より全国に拡大される予定である。

ドイツ（アメリカ）2018 年 9 月 21 日 WIRED

■ ドイツの自動運転路面電車が自律運転技術でレールの上を走る

GERMANY'S SELF-DRIVING STREETCAR PUTS AUTONOMOUS TECH ON TRACK

エンジニアが仕事をするうえで従うべき頭字語が多数ある中で、KISS、すなわち Keep It Simple, Stupid（構造をなるべく簡素にせよ）よりも重要視されるものはほとんどない。例えば自動運転車のような目新しいシステムを設計する際は、問題を制限し、変数を減らし、生活をなるべく気楽にするのがよい。世界はごちゃごちゃした複雑な場所である。解決の必要性が少なくなるほど、より実用的な製品となる。それこそ、ウェイモがアリゾナ州チャンドラーで車両を試験し、配備を計画している理由である。この町は晴天の確率が高く、交通が穏やかで、道路が緻密に配置されている。しかしこの町でさえ、ロボットは依然、左折などのお決まりの運転操作で課題にぶち当たる。そう考えると、ドイツのポツダムでエンジニアが KISS のアイデアを極限まで突き詰め、自動運転車両をレールの上で走らせるようにした理由が分かりやすくなる。シーメンス・モビリティ社は今週、初の自動運転路面電車の軽量軌道プロジェクト——ヨーロッパの人々はトラムと呼ぶであろう——をベルリンで開催された大規模なイノトランス鉄道技術見本市で紹介した。

イギリス（ドイツ）2018 年 9 月 24 日 Verkehrs Rundschau

■ イギリスの一協会はトラックに関するイギリスの EU 離脱の際の調整を要求している

BRITISCHER VERBAND FORDERT BREXIT-EINIGUNG FÜR LKW

イギリスの EU からの離脱が契約上の合意なしに行われた場合、イギリスの道路商品輸送に壊滅的な影響を与

える可能性がある。イギリス最大の輸送協会である貨物運送協会（FTA）は、イギリスのEUからの離脱が契約上の合意なしに行われると、イギリスの道路商品輸送に対し多大な影響が及ぼされると警告している。イギリスのトラック運転手は従来とは異なり、EU域内を走行する場合、イギリスの免許証に加え国際免許証を保持する必要がある。イギリスのトラック運転手のほとんどはこの国際免許証を保有しておらず、現在イギリスでは年間わずか1,224件の当該免許を発行することしかできないとFTAは明らかにしている。

ドイツ（アメリカ） 2018年9月26日 Clean Technica

■ ソーラーを組み込んだ電気自動車 26万台を準備

Get Ready For 260,000 Electric Cars With Solar Integration

コストを低く抑える決定を下したソノモータースは乗用車を自社生産しないものの、まだ知られていない欧州のメーカーに生産を委託する予定である。バッテリーはドイツのエリングクリンガーが供給する予定である。コンパクトミニバンのボディに太陽電池を組み込み、エネルギーを集めてバッテリーに供給し、250kmの航続距離をさらに30km伸ばすことができる。ソノモータースはシェアリングに焦点を当てていることから、同社のゴーソノというアプリケーションはサイオン（車名）の特別な3つの特徴、すなわちパワーシェアリング、ライドシェアリング、そしてカーシェアリングを組み合わせるとのことである。この機能性のおかげで、電力の共有、乗車の共有、あるいは車自体の共有が可能になる。ソノモータースのラウリン・ハーンCEO曰く、「わが社の車は非常に効率的に使えるはずですから、結局は必要な台数が少なくなります」としている。ミュンヘンを拠点とするこのスタートアップ起業はまず、クラウドファンディングから資金を集め、2016年にクラウドファンディングキャンペーンを通じて82万ユーロ以上の資金を調達した。2017年にはクラウド投資によって民間投資家から180万ユーロを調達した。ハウシュ社は「弊社は現金燃焼率が非常に低いので、長く続くでしょう」と予測し、またサイオンの黒一色のプランという簡素さが、成功を予測させる鍵となる要素である。まだ確実に分からないのは第1世代の車両がどのくらい長続きするかであるが、それを見出すのが楽しみであると言っておけば十分であろう。

アメリカ 2018年9月27日 Chicago Tribune

■ 電気式トライステート？イリノイ州有料道路局が州間高速道路294号の一部に充電機器の埋設を検討

An electric Tri-State? Illinois Tollway looks at embedding charging equipment in parts of I-294

イリノイ州有料道路局は、電気自動車が道路を通る際に充電する機器を州間高速道路294号に埋設することを検証中である。同局は州間高速道路294号の22マイル区間、別名トライステートを改築・拡幅する40億ドルのプロジェクトの開始段階にある。このプロジェクトの一環として、同局は電気自動車充電インフラも追加したい意向である。高速道路を離れば、従来型の充電ステーションと、電気自動車・トラックを急速充電する「スーパーチャージャー」ステーションを併設できる。同局は「スマート充電車線」も研究しており、これはスウェーデンで試験中の1つの技術で、米国の他地域でも検討されている。同局の運用担当主任、ケビン・アートル氏によると、この車線は舗装の下に充電技術を埋設すると想定されるとのことである。道路からの電力が電気自動車のフレームの底部に装着されたレシーバーに転送され、フルスピードで通過する際はワイヤレス充電することになる。このようなレシーバーは現状では電気自動車の追加装備であるが、同局の担当者によると、業界で標準になる可能性もある。